

民主青年新聞

●ホームページ www.dylj.or.jp ●Eメール minsins@dylj.or.jp

見どころ

軍拡より暮らし守れ 軍事費過去最大5・6兆円(3面)
基本のイメージをつかもう 前置詞の奥深さ(6、7面)
岸田政権による改憲を許さず、憲法いかし希望ある日本に (10、11面)

どう見る? どう考える?

岸田文雄^{ふみお}政権は、閣議決定によって安倍晋三元首相の「国葬」を9月27日に行うとしています。連日、「国葬」についての報道がされていますが、あらためてどんな問題があるのか、賛成・反対含めたさまざまな青年の声を基に考えます。また、「国葬」の歴史や、今行われることの問題点などについて、日本近代史を専門とする中央大学教授の宮間純一^{みまひと}さんに聞きました。(文中は一部仮名、塩田悠玄記者)



▶街頭からは「民主主義的な手続きで『国葬』実施を決定しているのか疑問」との声もあった(13日、渋谷)

安倍元首相の「国葬」

「NO」と言える雰囲気 つくりたい

民青同盟広島県委員会のある地域班は、シールアンケートを使った「国葬」に反対する街頭対話や、スタンディング宣伝を毎週のように行ってきました。宣伝行動を班で提案した上川優子^{かみかわ ゆうこ}さん(27)は、「今回の『国葬』は、国会を通さないで閣議決定されたことが嫌だった。私たちが(の意思)が無視されている感じがした」と、とりくむ動機について話します。「将来外交官になりたいから政治について調べているが、安倍政治はおかしいと思う。自分の良心に反す

憲法に反する「国葬」

街頭の声や広島市のシールアンケート対話でも示されたように、「費用が高すぎる」「国民のためにがんばった人だから弔うべき」など「国葬」に対する青年の評価はさまざまです。そんな

は、人は自由を侵害されることを明らかにしています。8日の国会の閉会中審査で、日本共産党の仁比聡平^{にひ そうへい}参院議員の追及に対し、岸田首相は「国民一人ひとりに喪に服することを求めるというものではない」「国葬儀の実施によって内心の自由が侵害されることはない」と答弁しました。しかし、政府は8月31日に、岸田首相が「葬儀委員長」として、「国葬」当日に「哀悼の意を表するため、各府省においては弔旗を掲揚するとともに、葬儀中の一定時刻に黙とうすることとする」と決定しています。これは各府省とそこで働く労働者に「弔意」を強制するもので、内心の自由を侵害します。

記者会見で、「国葬」は「故人に対する敬意と弔意」を国全体として表す儀式と述べた。国民主権の日本では、「国全体」とは「国民全体」ということで、首相の発言は、「国に『国葬』を行うことが、葬」は「故人に対する敬意と弔意を国民全体として表す儀式」と述べていることになり、憲法19条に違反した「弔意」の強制であることが明らかです。(2面につづく)

●安倍さんは国益に寄与したし、「(国葬)は」やっただけだ。外交的意義があるから、そこは法律的な根拠とかではなく判断すべき。(ネット系企業、30)

●「民主主義を守り抜くため」ということなら、議会で議論してから決めてほしい。費用も最初より高いのは話が違う。どこにそんなに使うのかははっきりさせてほしい。(接客業、22)

●費用がかかり過ぎだから世論調査で反対が多いんだと思う。もっと費用がかかるようなら自分も反対。あんな亡くなり方をしたのだから、(国民全体で)黙とうくらいやってもいいとは思えない。(大学2年)

●「国葬」はやってもいいと思う。国民のためにがんばった人のために、国全体で弔わないのはどうなのかなって思う。(大学1年)

街頭で聞いた
安倍元首相の「国葬」
どう思う?

●世論調査で反対が多いのは妥当。「国葬」である必要を感じない。合同葬の方がいいと思う。(大学4年)



▲上川さんらが行った街頭宣伝では多くの青年と対話した(上川さん提供)